

研究例会報告

〈第 397 回〉

日 時：2024 年 9 月 20 日(金)18:30～20:30

会 場：大阪市立総合生涯学習センター第 5 研修室

テーマ：アメリカ図書館界の最新動向 [ALA 参加報告]

発表者：豊田 恭子 氏（東京農業大学学術情報課程教授）

参加者：17 名

はじめに

今回の研究例会では、豊田恭子氏がアメリカ・カリフォルニア州に行かれた際の ALA 大会参加報告、カリフォルニア州における税の仕組みと市民と図書館の関係、アメリカにおける禁書の動きの大きく 3 つの内容を報告された。

1. ALA 大会参加報告

ALA 大会は、世界 70 か国約 16,000 人が参加する大きな大会であり、2,000 のセッションやイベントが開催される。大会スポンサーとして 5 万ドルを拠出する Over Drive 社をはじめ、Foundation（財団）の拠出も多い。出版社のブースもあり、作家や絵本作家のサイン会なども人気である。

科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、数学（Mathematics）の 4 つの分野（STEM）に関するブースやプログラムなどもあり、NASA と組んだプログラムでは、アメリカ各地の図書館 60 館に対して競争的助成金が支出された。金融教育なども含め、図書館を会場としての幅広いプログラムが盛んに行われていた。

ポスターセッションでは、アジアからは韓国や台湾などのものもあったが、日本からのものはなかった。会場内では映画の上映会や ALA AWARD の表彰式、サンディエゴ地区の図書館連携などの事例報告や動物園図書館の発表などがあった。

2. カリフォルニア州における税の仕組みと市民と図書館の関係

サンフランシスコ市周辺の幾つかの図書館を見

学した。サンフランシスコ公共図書館では、図書館前の広場で、NPO と組んで「対話をすすめよう」という取組を行っている。幾つかのテーマで、賛成から反対までの 5 つの選択肢が用意され、NPO のファシリテーター役とともに、来館者同士が議論できる場が設けられている。図書館員もファシリテーターができる人材が求められ、そのための養成研修はいつも定員に達する人気ぶりである。サンフランシスコを中心としたベイエリアには 100 を超える自治体があるが、各自治体によって税金の仕組みが異なっている。頻繁に住民投票があり、図書館建設のために、債券の発行や税金の上乗せを条例で定める自治体もある。

3. アメリカにおける禁書の動き

BLM（Black Lives Matter）活動が近年拡大した一方で、「人種差別の責任は白人にある」とする考え（CRT（Critical Race Theory／批判的人種理論））を批判的にとらえる人々の動きが拡大傾向にある。トランプ政権以降、このような動きが先鋭化し、これに同調する州知事が当選した例がある。州によっては、保護者が特定の図書を学校図書館から排除する申立てをし、書籍を撤去した例もある。また、「有害図書」に指定された図書を提供した司書に罰金刑か拘禁刑を科す法律が施行された州もある。LGBTQ に関する図書なども禁書の対象となっており、そのタイトル数も近年急増している。

4. 所見

アメリカの図書館は、住民の意見が反映され、社会問題などの課題に解決する場として、よりどころになっているところも多い。一方で、移民問題や黒人差別が根強くあり、伝統的な価値観を守りたいと考える人々からの強い圧力がかかっている現状も見逃せない。「アメリカの図書館は大きな曲がり角にきている」という言葉で、締めくくられた。

（文責：阪倉真一）